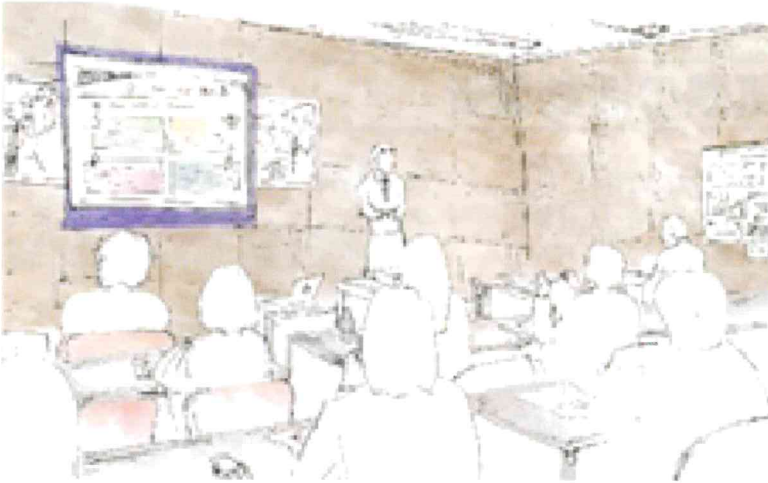


2017-March No.108

日本大学桜門建築会
<http://www.okenkai.jp/>



2014年から始まった津田沼元気塾は、社会の第一線で活躍するOB・OGを講師に迎え、在学生たちのやる気、元気を引き出している



contents

特集◎津田沼元気塾 卒業生・在校生・大学の新しい関係を築く試み——2

浅野平八 前田啓介 師橋憲貴 今夏紀 末永匠真

新連載◎もうひとつの世界から 塩川博義——8

研究室紹介◎コンクリート構造研究室(福井研究室) 矢代研究室——9

斎藤賞・加藤賞・桜建賞 2016年度受賞者一覧——10

オール日大建築系2016年度授与賞・受賞者一覧——12

事務局だより——14

学部ニュース——14

津田沼元氣塾

卒業生・在校生・大学の新しい関係を築く試み

学校を卒業して社会に出ると、忙しさにかまけ、先生や先輩、友人たちとの関係は薄れてしまいがちである。そうした現実をフォローするのが同窓会。桜建会もそのひとつだが、会の活動については、種々議論を重ね、活性化を模索してきた。そんな中、生産工学部の建築工学科の卒業生と教員が、直接在校生たちと関わり合うことを目的として「津田沼元氣塾」を立ち上げた。同窓会とはひと味違う、新しい取り組みと、活動を始めた熱い想いを関係者の方々に語っていただいた。(佐藤慎也/広報委員会委員長)

津田沼元氣塾の活動概要

I 本講座の開催趣旨および概要

①本講座の目的

本講座は、日大生産工学部津田沼キャンパス出身の第一線で活躍しているOG・OBの有志が集まり、現役の学生諸子へ「さらに元気になってもらう」ということを意図して始めた夜学である。

建築設計や現場施工管理にとどまらない分野で活躍中のOG・OB有志が、ボランティア精神の下、建築工学科に在籍する学生にさまざまな進路の可能性があることを伝え、「元気になってもらいたい」と元氣塾実行委員会を立ち上げて運営している。

「Core Capability」を、大学で学ぶ「Architectural Design」や「Architectural Technology」のベースとなる「技術者」としての基礎素養と定義し、その「Core Capability」をさらに Vitalize (生気を吹き込む、活気づける、活性化)させ、生産工学部津田沼キャンパスで建築を学ぶ学生全体のモチベーション向上を最終目的と設定した。なお本目的の下、講座参加者と講師の双方には以下のメリットが期待できると想定した。

・Protégé(プロテジー:被支援者、ここでは参加者)は、実践的言説に触れられ、自らの Technical Vitalize を図ることができる。

・Mentor(メンター:支援者、ここでは講師)も、Protégéからのフィードバックを聞くことにより、自分の言説・経験の再精査が行える。

②本講座の特徴

建築業界の一線に立つ、生産工学部

津田沼キャンパス出身技術者が、机上の学問ではなく、実践で培った経験を基に Practical (実践的) な説明を行うことが特徴である。

③本講座の運営法

基本的に月2回、6限目より実施し、Q&Aを含めて、1.5時間を開催時間としている。毎回講座終了後、参加者へ所定のアンケート用紙を配布して、講師・講演内容の評価を記載させ、それをもって出席確認としている。

④本講座の対象者

生産工学部建築工科学部生および大学院生、本講座に興味をもつ人とした。

⑤実行委員会

運営は津田沼キャンパス卒業生の有志による実行委員会で行う。実施責任者として専任教員1名がつく。

第1回実行委員会(2014年度)

実施責任者/浅野平八教授

担当幹事/前田啓介非常勤講師(日本アイ・ピー・エム)

実行委員/浅野平八・植野穰・渡辺岳彦

学生サポーター/長良介・伊藤航介・菅野哲平・北浦佑季・三田哲也・近内拓磨・和田朋秀・市原千誉・伊藤匡哉

第2回実行委員会(2015年度)

実施責任者/師橋憲貴教授

担当幹事/前田啓介

実行委員/浅野平八・植野穰・渡辺岳彦

学生サポーター/末永匠真

第3回実行委員会(2016年度)

実施責任者/師橋憲貴

担当幹事/前田啓介

実行委員/小松博・亀井靖子・浅野平

八・植野穰・渡辺岳彦
学生サポーター/今夏紀、北浦佑季、大坊岳央、日野優輝、伊藤匡哉、阿部敏士

II 3年間の活動の振り返り

①コンセプトの継続

元氣塾発足時より、【図-1】を基本コンセプトとして活動してきた。「縦軸の魅力的講師陣」による「横軸の魅力的テーマ」を提供する考え方は、下記の②、③で検証するように3年間を通じて実現できている有効なコンセプトであるため、今後も変更せずに継続していきたい。

【表-1】

回	講師名	所属
2014 H26	1 奥 俊哉	建築設計事務所 主宰
	2 高市忠夫	建築設計事務所 主宰
	3 前田啓介	情報通信・コンサル会社
	4 川崎健史	数寄屋建築専門施工会社 技術統括
	5 吉田 誠	建築専門カメラマン
	6 津金正哲	都市交通系会社・店舗開発部門
	7 澤田勝	大手ゼネコン設計部
	8 渡辺岳彦	大手ゼネコン設計部
	9 樋向祐治	茶室専門施工会社
	10 前田啓介	情報通信・コンサル会社
2015 H27	1 前田啓介	情報通信・コンサル会社
	2 植野穰	大手建築設計事務所・海外部門 責任者
	3 高市忠夫	建築設計事務所 主宰
	4 吉川みゆき	住宅専門建築設計事務所 主宰
	5 竹脇拓也	地域密着型工務店 主宰
	6 奥平高弘	大手ゼネコン施工管理部
	7 渡辺岳彦	大手ゼネコン設計部
	8 小松博	本学教授
	9 亀井靖子	本学准教授
	10 福島大我	大手ハウスメーカー 設計部
	11 師橋憲貴/前田啓介	本学教授/情報通信・コンサル会社
2016 H28	1 前田啓介	情報通信・コンサル会社
	2 石塚博身	大手プラント系設計部
	3 吉川みゆき	住宅専門建築設計事務所 主宰
	4 西牧厚子	建築雑誌編集長
	5 石川直子	建築設計事務所 主宰
	6 渡辺岳彦	大手ゼネコン設計部
	7 内村綾乃	建築設計事務所 主宰
	8 高市忠夫	建築設計事務所 主宰
	9 古沢孝	建築管理メンテナンス会社
	10 師橋憲貴/前田啓介	本学教授/情報通信・コンサル会社

②「縦軸の魅力的講師陣」の検証

魅力的講師陣を招聘できたかを検証するために、3年間の招聘講師を【表-1】にまとめる。

ゼネコン設計、施工の分野をはじめとして、さまざまな分野のOG・OBを招聘できたと考える。特に【表-1】の「ハイライト+下線引き」部の、「数寄屋建築専門施工会社技術統括」、「建築専門カメラマン」、「都市交通系会社・店舗開発部門」、「茶室専門施工会社」、「大手建築設計事務所・海外部門責任者」、「住宅専門建築設計事務所主宰」、「地域密着型工務店主宰」、「大手プラント系設計部」、「建築管理メンテナンス会社」の活動を紹介できたことにより、「魅力的講師陣」を招聘できたと判断する。

③「横軸の魅力的テーマ」の検証

魅力的テーマを提供できたかを検証するために、3年間の招聘講師より説明いただいた内容を、毎年本報告書内に掲載している【図-2】の4象限の「講演内容分析表」に落としてみる。

本分析表は、「縦軸」にその講師より説明いただいた「対象」を、Rem Koolhaas 執筆の『S、M、L、XL+: 現代都市をめぐるエッセイ』に準えて、「スケールに従う」ようにしている。

一方「横軸」は、その説明内容が建築技術として「従来型=Business as usual」であるか、「先進型=Advanced」であるかを表す。なお、「従来型=Business as usual」が劣っていて、「先進型=Advanced」が優れているという判断ではない。その講師により紹介された技術が、例えば規矩術に関するものであれば「従来型=Business as usual」と位置するだけであり、それがIT=情報技術に関連が

深い内容ならば「先進型=Advanced」に位置させているという考え方である。決して「規矩術」が劣っていて、「IT」が優れていると判断しているわけではない。むしろ、その技術の立脚点や発展の歴史などのさまざまな「様相」を、学生に提示することに意義があると考え、この評価軸としている。

III 津田沼元氣塾コミュニティの発足

2016年5月13日、本学桜門会館(校友会館)にて、「最先端で活躍する津田沼建築工学科OG・OBの新しい交流の場」として津田沼元氣塾コミュニティの発足を開催した。この設立は、以下の師橋先生の考え方を受けたものである。「建築工学科には教員間のコミュニティとして教室フォーラムが、また建築工学科の社会への情報発信として建築展の企画があります。しかし、建築工学科を卒業したOG・OBと在学生、さらに教員が交流する独自の企画はほとんどないと言えます。この津田沼元氣塾が、新しい交流の場としてますます発展することを願ってやみません」。

当日は、コミュニティ発足の祝辞を小松博建築工学科主任よりいただき、続いて乾杯のあいさつを元氣塾の設立者である浅野平八先生が述べた。また元氣塾で講演したOG・OBが、講演した順でリレートークを行った。

高市忠夫さんからは、その温和な印象からは想像できない「ものづくり=デザイン」にかける熱い想いとその決意を、吉川みゆきさんからは、自身の活動の紹介を通じ、参加した学生に対するやさしい心遣いをいただいた。奥平高弘さんからは、自身の清水建設での仕事の厳しさと、本元氣塾活動も学

津田沼元氣塾コミュニティの発足会に集まった関係者一同



内にこもっていないで学外に出て、見学会などを通じた「生」の現場を体験するべきでは、との提言をされた。亀井靖子先生からは、講演したときの振り返りの話があり、福島大我さんからは、近々の自身の業務の大きな変化、内村綾乃先生からは、自身の仕事を通じた学生へのエールをいただいた。

元氣塾実行委員の植野穰さんは、参加した学生へ最近読んだ本や見た映画の質問をされ、実務の上では専門的な技術力も必要だが、コモンセンスも身につけるべきとのアドバイスをした。同じく元氣塾実行委員の渡辺岳彦先生からは、本元氣塾の誕生の瞬間といきさつを紹介した。

発足会終了後の二次会にも講師の先生方が残り、そこに今年度より組成した(津田沼元氣塾学生サポーター)6名も参加して活発なものとなった。

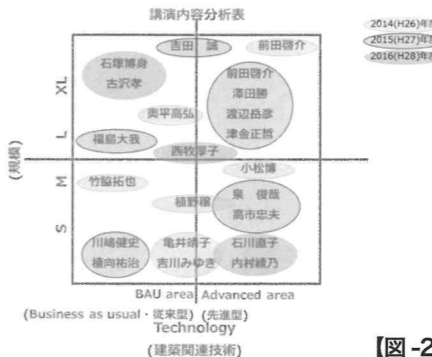
最後にその二次会でのエピソードをひとつ。懇親会終了時に会費を集めていたら植野穰さんが、「おれは円札がないからこれで払ってくれ」とドル紙幣を手渡した。ドル紙幣では困ると言う植野さんは「円札がもうない、ドル紙幣ならばたくさんある」と言う。市ヶ谷のひなびた居酒屋でこのシーンに遭遇し、これこそグローバルに活躍するOBの「生のワークスタイル」なのだと感じ入った。

こうした教科書に載らない、最先端の働き方をしているOG・OBの活動を少しでも現役の学生に伝えたく、元氣塾はさらに活動を継続していく。

毎回の元氣塾開催前には、生産工学部津田沼キャンパス4、5号館1階に三上先生にポスターを掲示していただいている。加えて学科ホームページの「お知らせ」欄にも掲載されている。本特集で興味をもった方は、ぜひ「津田沼元氣塾」に来ていただきたい。

実行委員一同、待っている。(前田啓介/元氣塾担当幹事、1985年卒業)

左ページ/表-1. 津田沼元氣塾に登壇した講師の方々。下/図-1は津田沼元氣塾の基本コンセプト。右/図-2は講演内容の分析表



津田沼元気塾とは

浅野平八(元生産工学部建築工学科教授 1969年卒業)

母校の位置づけ

滅多に顔を合わせる事のない、世代を超えた津田沼キャンパス卒業生数名が集まる機会があった。お互いの近況や卒業後の歩みを聞いて、新鮮だった。共通する母校への想い、学生時代への回顧から英気を養うことができた。元気塾の発想はこんなところから生まれた。

卒業生にとって、母校は還るべき場所のひとつだ。社会に飛び出す自分を育ててくれた学生時代は忘れることのない故郷である。

津田沼キャンパスの卒業生には「生産工学部」というレッテルがついてまわる。そして「生産とは?」という質問や懐疑的解釈に戸惑ってきた。このような世間の質問に答えられる満足なことばを、少なくともわれわれの卒業した学科はもってなかった。

現在ではホームページなどで、「日本でただひとつ、日本大学だけに設置されている生産工学部」「産業界に近い位置にある本学部では、『ものづくり』を俯瞰して経営学の視点から工学を考える教育を」などと説明されている。しかし、そのカリキュラムの実態については元教員である筆者にも責任はあるのだが、具体的に経営学の視点からどんなことを教えてきたかと問われれば、また答えに

窮してしまう。まして学生には経営学の視点を学んだ記憶はないだろう。それでもそれぞれに生産工学部を背負いながら、卒業生は自分の職場で自分の立場を構築している。各分野で活躍する卒業生も増え、自慢話も聞けるようになった。

この自慢話を後輩に聞かせたい、というのが元気塾の発端である。キャンパスには建築設計や研究が苦手、大学で学ぶという姿勢を見失っている学生がけっこういる。その学生たちにさまざまな選択肢を示し、将来に希望を抱くことができるような情報取得の場があれば、少しは元気が出るのではないか、ということで卒業生有志の話がまとまった。「津田沼元気塾」の開設である。

運営はボランティアで、決め手はやる気

運営は手探りの連続だった。試行錯誤の中からいくつかの方法が整理できた。

1/卒業後の歩みと実績を自分史として整理してもらい、そこで得た知見を客観的な視点をもって後輩に示し、「今もし自分が学生だったらこんなことをする」という学生生活モデルを現役学生に投げかける。

2/塾で話されたことを記録に残し、冊子として、教員や参加学生・卒業

生の手元に送り届ける。

3/塾の運営は、津田沼元気塾コミュニティを母体とし、大学の論理をもちださず、卒業生が蓄積した職業人としてのノウハウで行う。

以上の3点である。これを実行するのは容易ではない。講師役の卒業生はつい自己中心的な自慢話が多くなりがちであるから、幹事との打ち合わせが必要となる。塾の講義資料には印刷物として公開できない会社資料も多々あり、まとめた冊子が実際の内容より希薄なものになることがある。運営はまったくのボランティア集団であるから調整が煩雑となる。「津田沼キャンパス内の夜学」であるため、講演者・学生の高い参画意識がないと集まらない。

成果はこれから

このような塾の運営をまとめることについては、担当幹事の力量が欠かせない。幸いよき担当者に恵まれ、綿密な「連絡・報告・相談」を重ねながら続いている。成果を問うのはまだ早い。現段階では残した記録と参加者が受け止めた何かがあれば、やりがいがあったと言っていいだろう。(津田沼元気塾コミュニティ)の存在を価値あるものにするためには、まだまだ時間が必要である。



実際の開催時の様子。16年度第4回目。「新建築住宅特集」の編集長西牧厚子さんが講師を務める。学生に加えて常勤・非常勤の先生方も多数参加して、会は盛況だった

母校へ恩返しできる喜び

前田啓介(日本アイ・ビー・エム株式会社 1985年卒業)

本稿の前頁に浅野先生が「津田沼元気塾とは」と題して本活動の発端からを概説している。その文章中の「担当幹事」とは私のことである。

2013年の秋に生産工学部津田沼キャンパス近くの浅野先生生けつけの居酒屋で、本活動のコンセプトが生まれた。たまたまその場に私も同席していたため、その立ち上げ時より担当幹事役を拝命している。

母校で得た多くの財産

担当幹事役を続ける理由はただひとつ、母校へ少しでも恩返ししたいからだ。卒業後さまざまな経験をすればするほど、今の自分の「基礎」をつくったのは生産工学部建築工学科であると想い至る。建築全般への幅の広い母校のカリキュラムが、未知の分野への扉を開けてくれた。

私は学部卒業後、山口廣本学名誉教授の研究室にて、博士前期課程としてドイツ表現派をテーマに修士論文をまとめた。その後西ドイツへの留学を希望し、DAADの試験を受けるも失敗、「つて」を頼って西ドイツ国内で仕事をしようとしたが、ベルリンの壁崩壊によるドイツ国内就業事情の悪化により頓挫。短期間のアトリエ事務所の研修生を経て、佐藤総合計画に入社した。その入社も現取締役社長の細田雅春さんが、私が3年生のときの建築設計の授業で接していたからだ。入社試験時に数年ぶりにお会いした細田さんが私を覚えていて、拾ってくれた。

その後、縁があって現在所属している日本アイ・ビー・エムに移籍した。現在はコンピュータセンター、サーバールームを中心としたファシリティコンサルティングや、ワークス

タイル・イノベーションのコンサル業務とともに、建築設計を行っている。こうして「建築・ファシリティ」の世界で30年近くを過ごしているが、アトリエ事務所から組織事務所へ移った際、その設計対象物が大規模化、コンプレックス化した。コンピュータ会社である現在の日本アイ・ビー・エムへの移籍は、それ以上のパラダイム変化であった。

その「変化」に対応できた理由を冷静に考えると、充実した母校のカリキュラムと恩師、先輩のご指導のお陰だと確信する。こうした母校のご恩に報いたため、津田沼元気塾の担当幹事の任にあたっている。

担当幹事の要諦

なお、ご恩返しであるからこそ、本活動を通して母校の名を傷つけないよう、3つのことに気をつけている。

ひとつ目は、ボランティアの活動だからこそ実務と同様のビジネスマナーを徹底する。つまり決してプライベートな容易さを持ち込まない。具体的には、講演依頼を基本は実際に会って行う。ともするとeメールなど一方的な依頼となりがちであるが、事前に紹介してくれた方が会っていたり、講演者本人が面会を望まない場合を除き、できる限りの礼儀を尽くすようにしている。

ふたつ目は、ご講演者の選定には十分な検討と配慮を行うことである。複数名の実行委員会各位との講演者選定作業では、津田沼元気塾の趣旨を十分理解できる方を選んでいく。母校に対する想い、生産工学に関わる取り組み、学生へ伝えたい強いメッセージをもつ方を探している。

3つ目は、津田沼元気塾の活動の

報告書作成である。本活動を定着させ、講演会当日に参加できなかった方々に当日の内容を知ってもらうために、その年の講演記録や当日の説明資料を網羅した報告書を毎年作成している。建築工学科の好意により作成費用を負担していただけるのは、ボランティア活動だからこそ。ただし、講演者との原稿の授受、内容確認、当日ご講演時の議事録作成は担当幹事の仕事となる。そのため、ここ3年の年末年始の私の休暇は、報告書作成に費やされる。とはいえ津田沼元気塾の1年の活動内容を振り返ることは喜びでもある。講演いただいた数多のOG・OBの言説を、年の最後に振り返られることは私の役得でもある。

今後の展開

最後に本活動の今後の展開を考えてみたい。後述する(津田沼元気塾コミュニティ)は、その参加メンバーの多様性や第一線での活動経験より、本学への第三者 Review 機関(外部評価)としての役割も期待されている。私は昨年(第49回)生産工学部学術講演会の「人文・社会・教育」分野で、「津田沼元気塾/建築工学科卒業生と在学学生との新たな交流の場を通しての建築教育に関する研究の試み」を発表した。その後に座長の山川一三男先生より「学部共通の講座にできないか」との申し出もあった。領域を超えた展開のチャンスがあれば、ぜひチャレンジしたいと考える。

さらに社会人教育への拡張もぜひ今後検討したい。卒業生本人がやる気みせれば、母校への大きな恩返しになるようだ。気を引き締めて、ことにあたりたい。

OB・OGによる建築キャリア教育

師橋憲貴 (津田沼元気塾実施責任者、生産工学部建築工学科教授 1986年卒業)

生産工学部は2017年度に創設65周年を迎える歴史を有している。大正15年の陸地測量部製版図によると、大学の敷地から現在の京成大久保駅にかけての町名は津田沼町と表記されているので、津田沼キャンパスという名称は納得ができる(日本大学生産工学部創設40周年記念誌参照)。津田沼キャンパスの敷地は、旧日本陸軍騎兵第14連隊の習志野演習場跡地で、兵舎ばかりのキャンパスからスタートしている。

津田沼からの発信

前身の経営工学科から生産工学部へと改組したとき、生産工学について「産学機関ノ思想ヲ実践スルコト」の表現があると松井勇前学部長は創設60周年記念誌の中で述べている。生産工学部建築工学科は工学における基幹分野として、本学部の創設時の工業経営学科6コースのひとつとして発足。本学科のOB・OGは1万4000人を超えている。このような津田沼キャンパスを意図する津田沼の名称を取り入れ、多くのOB・OGを手がかりとした「津田沼元気塾」において、私は浅野平八元教授から引き継ぎ、2015年および16年度の2年間実行委員として協力させていただいた。参加学生に対するOB・OGからの仕事の紹介に着目して、津田沼元気塾とおしたキャリ

ア教育について述べてみたいと思う。

若い人が目指す人間像は

リクルートワークス研究所の古野庸一氏は、ロールモデルを「憧れの先輩モデル」として定義している(『Works No.35』1999年、リクルート)。そこには、「先輩は、伝記に載るような偉人もあれば、身近なところでは、父親、母親、親戚、あるいはOB・OG、会社の先輩もある。多くの人生の先輩に出会えば、共感し、憧れる人に出会う確率も高まる」と述べられている。学部のカリキュラムでは3年生に生産実習が設置されており、学生は職場見学・職場体験をとおして仕事の一端を経験することができ、たいへん意義がある。しかし、経験できる職種や指導してくださる方の数には限りがある。

津田沼元気塾は、多種多様な職種を経験されている憧れの先輩モデルを活用したキャリア教育のプログラムという位置づけではないかと思っている。15年度に生産工学部のFD・SD研修会で特別講演をした佐藤浩章博士によると、学生にとっては、親や大学の教員は必ずしもロールモデルとはならず、社会人のモデルを必要としており、親や教員のような縦のつながり、学友のような横のつながりに加え、少し先へ行く先輩との斜めのつながりが重要である

と述べた(『若者の仕事生活実態調査報告書』2006年、ベネッセ教育総合研究所)。ロールモデルとは、社会で働き少し先へ行く先輩が自分のキャリアを後輩のために自己開示することである。津田沼元気塾は年代や出身の研究室がバラバラであっても、分野・領域を超えて津田沼(生産工学部)出身というよしみ(縁)が、お互いの交流を生みやすくしていると考えられる。

学科の枠を超えた活動へ

毎年、11月に行われる生産工学部の生産実習・就職合同企業懇談会における設備工事系の企業の方とのあいさつでは、機械工学科や電気電子工学科の出身者はいるが、建築工学科の出身者がいないのでぜひ紹介してほしいと声をかけられる。このことから、今後は津田沼元気塾を、学科の枠を超えたキャリア教育に役立つものへ発展させたいと、夢を描いている。有本章氏は『大学のカリキュラム改革』(玉川大学出版部)の中で、「与える教育」ではなく学習者を尊重した「学ぶ教育」という副専攻プログラムの履修について言及している。

最後に津田沼元気塾に協力、賛同していただいている建築工学科の諸先生方、参加の学生諸君、そしてなによりボランティアでご講演くださるOB・OGの方々に、この場をお借りしてお礼申し上げる次第である。

津田沼元気塾は、ふだんの授業では学ぶことのできない貴重なお話をたくさん聞くことができます。2016年度は、石川直子さん、内村綾乃先生、前田啓介先生の講演に参加しました。

今振り返ってみると、みなさんのそれぞれの経歴がぜんぜん違いました。大学までは生産工学部で一緒、その後、いくつかの設計事務所を経て独立されていたり、前田先生のように設計事務所から、現在はファシリティ・マネジメントの仕事をしている方もいます。私自身、進路に悩んでいたことがあり、「この方向でいこう」と決めたことで、人生が決まるものという気持ちでしたが、もっと気楽に考えられるようになりました。

この講演会を経て、今の生活に変化をもたらしたこともあります。仕事の優先順位についてです。現在私は修士課程1年です。学部生のとき

私が津田沼元気塾に出会ったのは2014年でした。建築写真家の吉田誠さんの講演であったことを覚えています。内容は、竣工したばかりの建築物の写真を撮影する仕事についてでしたが、建築写真家という仕事の存在を知らなかった私にとって、たいへんな驚きがありました。

学生時代に
聞いたことが
社会人生活に
影響

末永匠真
(2016年卒業)



に比べ、やらなければいけないことが増え、時間をうまく使えないことに悩んでいました。その頃、2015年度の元気塾の記録本をふと手に取りました。その中の非常勤講師の渡辺岳彦先生の講義内容は、効率的に仕事をするために行っていることについての記事でした。それは、たくさん仕事の中で優先順位をつけ、常に見直ししながら、計画的に処理するということでした。私は、今まであまり意識していなかったのですが、時間の使い方を見直し、改善しようと思うようになりました。

私が入学したばかりの頃、建築の職種で知っていたのは、設計と施工管理のみで、さまざまな職種があることを知ったのは、3年になって研究室に入ってからでした。

津田沼元気塾は、建築分野に関わるさまざまな職種を知り、視野を広

そして、元気塾ではさまざまな経験を積んだ方の話が聞けることを知り、卒業するまでの約1年間、元気塾のサポーターを勤めました。

当時大学2年生だった私は、建築工学科だから進路も建築関係だろうと、ざっくり考えていましたが、元気塾のプロテジーになって、進路に対する考えは大きく変わりました。建築業界は施工管理や設計だけではなく、広い視野をもって進路を考えることができました。現在、私はIT企業でファシリティに関する仕事をしていますが、この道を見つけられたのは元気塾の存在が大きいです。そして、元気塾での経験は今の社会人生活にも影響を与えています。講演してくれるメンターの話は、自らがどのようにして社会人生活を過ごしてきたかについて詳しく話してくれます。元気塾の委員でもある渡辺岳彦さんは、講演の中で「景気の起伏に影響を受けやすい建築

元気塾に参加して



今夏紀
(大学院生産工学研究科博士前期課程 永井研究室所属 2016年卒業)

げることができる場であると感じます。この元気塾に参加して、より早い時期から視野を広げながら、自分の将来の目標を見つけることで、なにごとにも一所懸命に取り組めるようになるのではないかと考えます。

ぜひ、みなさんも参加してみてください。いかがでしょうか。

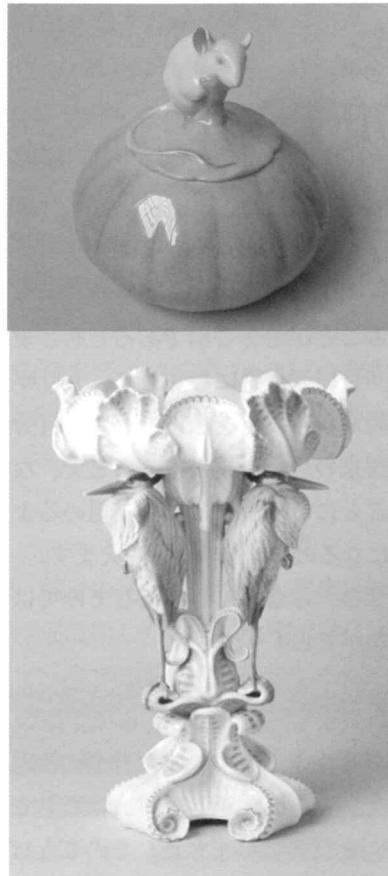
業界を生きる上で、常に社会の流れを先読みして生活しなければならない」と言っていました。このことばを、私が社会人生活を過ごす上で常に意識しています。私が勤務するIT業界も社会に影響を大きく及ぼしている業界である上、新しいイノベーションを誕生させるためにも、常に社会の流れに敏感でないとはいけません。そのため、今でもこのことばは、ビジネスをする上で意識しています。学生時代は「建築とは? 社会人とは?」という漠然とした気持ちで参加していましたが、社会人になってからメンターのことばが、なにを指していたかを感じることができます。元気塾は「今」の自分を醸成するのではなく、「未来」の自分を醸成するためにあると思います。今後とも現役学生の未来を醸成するべく、メンターの方にエッセンスを出してもらい、私もこの活動を支援していきたいと思っています。

左/ OB・OGの心に残る学び舎として現存する津田沼キャンパス11号館建築構造実験室の工事風景。1960年当時。写真提供は新宮清志日本大学名誉教授。設計/小林美夫講師、構造設計/加藤渉教授、本岡順二郎講師、西村敏雄助手(所属は理工学部建築学科、肩書は設計当時)。右/デザイナーの高市忠夫氏は「建築を生涯の仕事とするには何か必要か」と題して、10代、20代をどのように過ごすべきかを語った



新連載・もうひとつの世界から・第1回

陶磁器研究家/陶磁器コレクター 塩川博義 (生産工学部建築工学科教授)



上/ロイヤル・コペンハーゲン窯。鼠蓋付南瓜形小壺。製作年代は1907～22年。造形作家はクリスチャン・トムセン。釉下彩。
下/ピング&グレンダール窯。鷺のセンターベース。製作年代は1902～14年。造形作家はピエトロ・クローン。釉下彩 (オリジナル作品は、1889年のパリ万博に出品)



Shiokawa Hiroyoshi
1961年神奈川県生まれ。83年日本大学理工学部建築学科卒業。85年同大学院修了。現在、日本大学教授、生産工学部勤務。博士(工学)。1998年より1年間、デンマーク工科大学音響研究所へ客員研究員。著書に、『魅惑の北欧アール・ヌーヴォー 塩川コレクション ロイヤルコペンハーゲン・ピング&グレンダール』(監修)、『アール・ヌーヴォーの装飾磁器 ヨーロッパ名窯 美麗革命!』(共著)など。

卒業生たちが建築という点でつながる桜建会だが、その一人ひとは、建築以外の関心事をそれぞれもつ。この連載では、専門分野から少し離れて、興味深いもうひとつの世界を紹介する。第1回目は、生産工学部の塩川博義教授に欧州の陶磁器について語っていただいた。

1998年から1年間、コペンハーゲンに住んでいたとき、週末に通ったフリーマーケットでロイヤル・コペンハーゲン窯の磁器と出会い、陶磁器コレクターの道歩み始めました。専門書を読み、調べていくうちに段々と面白くなり、日本に戻ってから収集と研究を続けておりました。

あるとき、近代国際陶磁研究会で、デンマークにおけるアール・ヌーヴォー磁器についての講演を頼まれ、これを聴いてくれた陶芸美術館の学芸員の方々が、是非、私のコレクション展を開きたいと依頼してきたのです。そして、2011年9月から「魅惑の北欧アール・ヌーヴォー 塩川コレクション ロイヤルコペンハーゲン・ピング&グレンダール」展を美術館4館で開催していただきました。おかげさまで、大盛況に終わりました。さらに北欧だけでなく、フランス、ドイツ、オランダなどのアール・ヌーヴォー磁器も紹介しようということで、2015年12月から美術館4館において、「アール・ヌーヴォーの装飾磁器」展を企画しました。

現在、京都の細見美術館で開催しています(4月9日まで)。また、今年は「デンマーク・デザイン」展にも50点ほどコレクションを出品しております。19世紀末のヨーロッパの磁器メーカーは、それまでの歴史主義からの脱却に苦しんでいました。この状態からいち早く脱したのがデンマークのロイヤル・コペンハーゲン窯でした。ロイヤル・コペンハーゲンは、1885年に建築家のアーノルド・クローを芸術主任として迎えます。クローは科学者クレメントとともに、釉薬の下に多色の絵付けをする釉下彩という技術を完成させ、ジャポニズムの要素を取り入れて、1889年および1900年のパリ万国博覧会でグランプリを獲ります。そして、1893年のシカゴ万国博覧会では、クリスタル・グレイズ(結晶釉)の技術を完成させて出品します。

一般的に、アール・ヌーヴォー装飾磁器とは、この釉下彩と結晶釉磁器のことを指します。フランスのセーヴルも、1889年のパリ万国博覧会での失敗を教訓に、1897年に建築家のアレクサンドル・サンディエを芸術主任として迎えます。そして、1900年のパリ万国博覧会ではグランプリをはじめとする多くの賞を獲得します。ドイツのマイセンも1900年パリ万国博覧会では失敗に終わり、やはり、ベルギー生まれの建築家のアンリ・ヴァン・ド・ヴェルドやデザイナーのリヒャルト・リーマーシュミットらにデザインを依頼し、1904年のセントルイス万国博覧会において、ユーゲントシュティールの作品を出品して成功を収めるのです。

このように、19世紀末から20世紀初頭のヨーロッパの各窯では、自社の内部改革を行うために建築家を採用するのです。

「デンマーク・デザイン」展 これからの巡回予定
2017年4月28日～6月25日 横須賀美術館(神奈川)
9月9日～11月12日 静岡市美術館(静岡)
11月23日～12月27日 東郷青児記念損保ジャパン日本興亜美術館(東京)
2018年2月24日～4月8日 山口県立美術館(山口)

研究室紹介

研究テーマ 高耐久・高耐力のコンクリート構造の開発
塩害に強く・津波や地震に耐えるプレストレストコンクリート構造

研究室名 コンクリート構造研究室(福井研究室)

教員名 准教授・福井剛/特任教授・浜原正行

キーワード プレストレストコンクリート/プレキャスト/圧着/せん断伝達機構

企業等への要望 共同・受託研究の要請 実作・試作等の協力 研究成果の事業化等 その他

研究概要 当研究室は建築学科本岡研究室の流れを汲んで、主としてプレストレストコンクリート(以下PC)構造に関する研究を行っています。PC構造では、ひび割れの発生を制御するため、腐食性環境である沿岸域においても耐久性の高い建物を造ることができます。

また、周知の通り、極めて高い復元性を有することから、損傷制御を目的とした設計にも適しています。慣性力である地震力とは異なり、津波は建物に直接的な荷重として作用するため、津波を想定する建物には大きな耐力と被災後の復元性が不可欠です。プレキャストPC圧着工法は、この条件に合致していることから、全国で津波避難施設に用いられています。

当研究室でもプレキャストPCに関する研究をひとつの軸としており、近年は異形PC鋼棒を用いたプレキャストPC柱の力学的特性やPC圧着接合部のせん断耐力に関する研究を行っています。また、PC造柱梁接合部の応力伝達機構、地震力を受けるPC梁におよぼす長期荷重の影響など、近い将来に社会の役に立つことを目標に、PC構造に関する基礎的な研究を行っています。

連絡先◎理工学部海洋建築工学科船橋校舎13号館6階 Tel 047-469-5527 E-mail fukui.tsuyoshi@nihon-u.ac.jp

研究テーマ 21世紀の建築の姿を考えるヒントとするための20世紀建築の建築史建築論的研究
オランダでの造形理念の発展とその反映としての実践の軌跡を中心として

研究室名 矢代研究室

教員名 教授・矢代真己

キーワード 20世紀建築/近代主義/バウエン/構築/ソーシャルハウジング/モダンデザイン

企業等への要望 共同・受託研究の要請 実作・試作等の協力 研究成果の事業化等 セミナー、講演など

研究概要 「振り返れば明日が見える」ということばを胸に刻み、建築史建築論に関する研究を、建築計画・設計や意匠とも関係づけながら考えることで、過去から現在、そして未来へとつながる思考の流れを創り出したいと作業に取り組んでいます。

一般に「無装飾の白い箱」と形容されるモダニズムの建築ですが、なぜそれが求められ、実践されたのか、その造形理念の理由と意味について、オランダを解釈の中心にとらえ、「バウエン=構築」という視座を補助線として、社会的な背景も踏まえながら研究を進めています。フランスやドイツといった大国に挟まれ目立ちませんが、実はオランダは近代建築の大国(堀口捨己をはじめ戦前の渡欧者にとってオランダはマストの地でもありました)であり、小国ゆえに合理的・客観的な思考がより求められ、それゆえフランス(ル・コルビュジエ)やドイツ(バウハウス)からは見えない視界が開けるからです。また、その具体的な発露となる実践の軌跡を、集合住宅(ソーシャルハウジング)の発展展開のプロセスを舞台に検証しています。加えて、わが国と欧州との交流の軌跡についても追跡しています。

昨年度はオランダ・ライデン大学東京事務所の秋の特別講座で「オランダ建築の20世紀を考える」というテーマのもと、「モダニズム建築のもうひとつの相貌-建築家マルト・スタムと“バウエン”という構想-」、「オランダのハウジング百年史-多様と統一の共存をめざした多元的な試みの軌跡-」という2回のセミナーを行うことができました。

理工学部建築学科の建築史・建築論研究室とも連携を図っており、日本におけるバウエン=構築という思考の実体を考えるための山越邦彦研究会では大川三雄特任教授と、日欧の交流の痕跡を探るためのモダニズムにおける日欧交流史研究会では田所辰之助教授と、共同作業を行っています。



東京芸大でマルト・スタムについてオープンセミナーを行った際のポスター

連絡先◎日本大学短期大学部建築・生活デザイン学科 船橋校舎9号館2階 Tel 047-469-5819 E-mail myashiro@arch.jcn.nihon-u.ac.jp

齋藤賞・加藤賞・桜建賞 2016 年度受賞者一覧 *受賞作品の紹介は次号に掲載いたします

齋藤賞

松尾明穂 (理工学部建築/修士論文)
「音楽と十二平均律に着目した演奏空間における音場の解析手法」
指導/准教授・橋本修、教授・羽入敏樹、准教授・星和磨

伊藤淳 (理工学部建築/修士論文)
「鉄筋とコンクリート棒形振動機の接触を考慮した締固めにおける再振動に関する研究」
指導/教授・中田善久

矢作知也 (生産工学部/修士論文)
「3次元音響数値解析を用いたダクト開口端反射減衰に関する研究」 指導/教授・塩川博義

星小百合 (工学部/修士論文)
「鉄骨置屋根形式体育館の制振補強に関する研究」 指導/教授・浅里和茂

加藤賞

岸田智之 (理工学部海洋建築工/修士論文)
「大型石炭貯蔵浮体の波浪中弾性応答特性に関する基礎的研究」 指導/教授・居駒知樹、准教授・惠藤浩朗

三上康光 (理工学部海洋建築工/修士論文)
「盤洲干潟における地形変化と植生分布の予測モデルの開発」 指導/教授・小林昭男、助教・野志保仁

原田耕成 (理工学部海洋建築工/修士論文)
「黒鉛を摩擦材とした滑り基礎構造建物の応答性状に関する研究」 指導/教授・北嶋圭二

桜建賞

坪井恒太郎 (理工学部建築/卒業論文)
「戸建住宅の実用的環境振動予測法に関する基礎的検討」 指導/准教授・冨田隆太、特任教授・井上勝夫

青柳智、石澤遙、枝村泰、長谷川優花 (理工学部建築/卒業論文)
「大振幅地震動に対応した免震フェイルセーフ機構の開発」 指導/准教授・秦一平

黒瀬梨加 (理工学部建築/卒業論文)
「中間階免震建物の簡易設計方法に関する基礎的研究」 指導/准教授・秦一平

仲辻真理 (理工学部建築/卒業論文)
「サービス付き高齢者向け住宅における住民間の交流に関する研究」 指導/准教授・山中新太郎

庭田茂慧 (理工学部建築/卒業論文)
「東京都に現存する文化財指定古民家の維持管理実態について-修理の状況と防災施設、運営状況を中心として-」
指導/教授・重枝豊、助手・加藤千晶

成潜魏 (理工学部建築/卒業設計)
「城中村を、つなぐ-都市政治へのアプローチ-」 指導/教授・佐藤光彦

矢田光輝、坂本真哉 (理工学部海洋建築工/卒業論文)
「正負繰り返し水平荷重を受ける RC 骨組の挙動に及ぼす鉛直荷重の影響」
指導/准教授・福井剛、特任教授・浜原正行

桜建賞

村田昌樹 (理工学部海洋建築工/卒業論文)
「突堤形状を様々変化させた場合の沿岸漂砂阻止効果の違い-BG モデルによる検討-」
指導/教授・小林昭男、助教・野志保仁

小山大樹、島田佳南、新保拓海、辻華奈 (理工学部海洋建築工/卒業論文)
「レンズダンパーを取り付けた RC 造間柱の構造性能に関する実験的研究」
指導/教授・北嶋圭二、特任教授・中西三和、名誉教授・安達洋

堀江優太郎 (生産工/卒業論文)
「石綿含有吹付けロックウールの飛散抑制に関する研究-粉塵飛散抑制剤の飛散抑制効果の検証-」
指導/准教授・永井香織

羽鳥孝亮 (生産工/卒業論文)
「プレ・ループにおける排水方法について-クメール宗教建築の排水システムに関する実証的研究-」
指導/教授・塩川博義、助教・小島陽子

井手優汰 (生産工/卒業論文)
「国木田独歩の著す『武蔵野』の空間の特徴の探究」 指導/准教授・篠崎健一

杉山未沙 (生産工/卒業設計)
「思いを受け取り、届ける。」 指導/准教授・篠崎健一

井手優汰 (生産工/卒業設計)
「林の奥に座して四顧し、傾聴し、睇視し、黙想す -国木田独歩文学館-」 指導/准教授・篠崎健一

眞船峻 (工学部/卒業設計)
「土地の楔-木を通した循環型システムの構造体-」 指導/教授・Buntara S. Gan

石井大地、山口達也、渡邊拓哉 (工学部/卒業論文)
「1 質点系モデルを用いた動的測定精度の検討」 指導/教授・千葉正裕、助教・日比野巧

西田電、和田広道 (工学部/卒業論文)
「竹補強ポリマーセメントモルタルの性能-曲げ性状及び耐衝撃性に及ぼす養生方法の影響-」
指導/教授・出村克宣、専任講師・齋藤俊克

川本祐大 (工学部/卒業論文)
「福島県内における信州高遠石工に関する研究-作品に見る石工と出稼ぎ先の関係性について-」
指導/助教・山岸吉弘、教授・速水清孝

小飯塚篤哉 (工学部/卒業論文)
「文化財建築を対象とした火災安全性の研究-歴史的規模木造宿泊施設を対象として-」
指導/教授・森山修治

横山実花 (短期大学部/卒業研究・設計)
「ワンダフル-犬と暮らす8家族の住まい-」 指導/教授・矢代眞己、助手・高田康史

大村慎子 (短期大学部/卒業研究・論文)
「音楽ホールにおける音波伝搬のリップルタンク法による可視化」 指導/教授・羽入敏樹

オール日大建築系 2016年度授与賞・受賞者一覧

理工学部建築学科・理工学研究科建築学専攻
[齋藤賞]
環境系および構造系分野の優れた修士論文に対し、齋藤賞基金に基づき、校門建築会より授与。元日本大学副総長、理工学部長であった齋藤謙次先生の高い業績を称えて設けられた。
* 10 ページ参照

[吉田鉄郎賞]

設計・計画系分野の優れた修士論文および修士設計に対し、建築学科顕彰基金に基づき、建築学科教室より授与。本学の設計教育の礎を築かれた吉田鉄郎先生の業績を記念して命名。

- 黒田陽二郎「ソーシャルメディア上に表れる美術館のイメージに関する研究 -Instagram の投稿画像を通して -」（修士論文）指導：佐藤慎也教授
- 敦賀谷俊「日本の伝統的な建築空間における分節接続方法の分析による設計手法の提案 -与野本町小学校複合施設を事例として -」（修士設計）指導：佐藤光彦教授

理工学部建築学科・理工学研究科建築学専攻
[齋藤賞]
* 10 ページ参照

[駿建賞]

優れた修士論文および修士設計に対し、建築学科顕彰基金に基づき、建築学科教室より授与。

- 富澤彩菜「建築用板ガラスの破壊応力と破壊性状に関する基礎的研究」（修士論文）指導：岡田章教授
- 宮内隼「ETFE フィルムを用いた密閉型レンズ状二重空気膜構造の基本的力学性状に関する研究 -積雪偏荷重時における挙動と進行性ポンティングに関する検討 -」（修士論文）指導：岡田章教授
- 渡邊湊「FEMを用いた超高強度鉄筋コンクリート構造物に生じる初期ひび割れの幅と位置の予測」（修士論文）指導：長沼一洋教授
- 江夏隆弘「大工棟梁・平田雅哉の建築活動に関する研究 -近代数寄屋建築史上における位置づけ -」（修士論文）指導：田所辰之助教授、大川三雄特任教授
- 石田敬幸「再生建築における既存部位と新設部位の関係性に着目した分析および設計提案 -渋谷区に現存する木造家屋をケーススタディとして -」（修士設計）指導：佐藤慎也教授、古澤大輔助教
- 齊藤佑樹「地域性を有するヴォイドの戦略による都市建築の再構築 -渋谷区役所及び渋谷公会堂整備計画を事例として -」（修士設計）指導：佐藤光彦教授
- 清水亮輔「インフラストラクチャの再生による銀座空中芸術都市構想 -東京高速道路のペDESTリアン化及び美術館・集合住宅の複合による都市横断型建築の設計 -」（修士設計）指導：今村雅樹教授
- 建石洋「障害種別と学年構成を考慮した複合型幼小中高一貫特別支援学校の計画」（修士設計）指導：山中新太郎准教授

[桜建賞]

優れた卒業論文および卒業設計に対し、校門建築会より授与。

*** 10 ページ参照**

[駿優賞]

優れた卒業論文および卒業設計に対し、建築学科顕彰基金に基づき、建築学科教室より授与。

- 山本貴史「日常生活時に発生する衝撃力と標準衝撃源に関する研究」（卒業論文）指導：富田隆太准教授、井上勝夫特任教授
- 朝比奈尚輝、三谷理沙子「実住宅を対象とした環境振動に対する人の振動感覚評価に関する研究」（卒業論文）指導：富田隆太准教授、井上勝夫特任教授

毎年卒業の時期に、大学院生、学部生の勉強の成果を顕彰する各種の賞が決定する。ここでは2016年度に授与した学生とそのタイトルを、一覧にして紹介する。

理工学部海洋建築工学科・理工学研究科海洋建築工学専攻
[加藤賞]
もともと優れている修士論文に対し、校門建築会より授与。海洋建築工学科を創設された元理工学部長の加藤渉先生の功績を称えて設けられた。
* 10 ページ参照

- 鷹巣飛鳥「コンクリートポンプ工法におけるベント管の根元圧力が圧力損失に及ぼす影響」（卒業論文）指導：中田善久教授、宮田敦典助手
- 鷲海昂「風放射型ケーブル屋根構造の基本的構造特性に関する研究 -境界リング形状の違いによる影響の把握 -」（卒業論文）指導：岡田章教授、宮里直也准教授、廣石秀造助教
- 笠原貴喜「火災による梁の伸び出しを考慮した高強度RC柱の軸力支持能力に関する解析的研究」（卒業論文）指導：長沼一洋教授、田嶋和樹准教授
- 福田和馬「相互貫入ユニットで形成された Tensegrity Truss ドームの力学特性に関する基礎的研究」（卒業論文）指導：岡田章教授、宮里直也准教授、廣石秀造助教
- 溝口滉介「住宅団地における屋外空間の改修手法に関する研究 -東京圏のUR 都市機構の住宅団地を対象として -」（卒業論文）指導：山崎誠子准教授
- 日栄詩織「古民家に用いられた建具の配置と手法について -世田谷区・指定民家の柱と建具の実測を中心として -」（卒業論文）指導：重枝豊教授、加藤千晶助手
- 増田俊「表裏一体 -赤羽商店街の再開発を取り込んだ小学校の計画 -」（卒業設計）指導：今村雅樹教授

[奨励賞]

優れた修士論文および優れた卒業論文・卒業設計に対し、理工学部校友会からの寄金に基づき、建築学科教室より授与。

- 宮田岳学「コンサートホールにおける演奏によって生じる振動が音楽の聴取体験に及ぼす影響」（修士論文）指導：橋本修准教授、羽入敏樹教授、星和磨准教授
- 熊田健太「スウェーデン式サウンディング試験結果から直接地盤の液状化強度を評価する方法に関する研究 -室内試験および液状化被害記録に基づく検討 -」（修士論文）指導：山田雅一教授、安達俊夫特任教授
- 片岡繁人「郊外住宅地「上御代の台」の計画と特徴に関する研究」（修士論文）指導：田所辰之助教授、大川三雄特任教授
- 落合俊貴、朝田絵美「楽音を用いたインテンシティによる音楽ホールの方向情報の解析」（卒業論文）指導：羽入敏樹教授、星和磨准教授
- 菅野義久、鈴木皇大「中間層免震構造物の地震時動的応力に関する研究」（卒業論文）指導：古橋剛教授
- 杉浦葉々「小学校3年生の意識から見るまちづくりに関する研究 -下田市における『こどもまち遺産ワークショップ』を実施して -」（卒業論文）指導：山中新太郎准教授
- 横山大貴「浦人の舟屋 -佃島を母体とした職住近接型集住体 -」（卒業設計）指導：今村雅樹教授

理工学部海洋建築工学科・理工学研究科海洋建築工学専攻
[加藤賞]
もともと優れている修士論文に対し、校門建築会より授与。海洋建築工学科を創設された元理工学部長の加藤渉先生の功績を称えて設けられた。
* 10 ページ参照

[桜建賞]

*** 10～11 ページ参照**

[海建優秀賞]

もともと優れている卒業論文に対し授与。

- 蒔苗嘉人「陸上遡上した建築物に作用する荷重特性に関する基礎的研究」指導：居駒知樹教授、恵藤浩朗准教授、増田光一特任教授

- 飯塚智哉「言い伝えからみた洪水被害軽減を図るためのリスクコミュニケーションのあり方に関する研究 -埼玉県に根付く「俗信」を対象として -」指導：畔柳昭雄教授、菅原遼助手

[海建賞]

- 中本壮祐「三番瀬における放射能汚染について」指導：大塚文和准教授、川西利昌名誉教授
- 野川大輔「循環型浄化システムを用いた堆積汚泥に吸着した放射性セシウムの除去 -最適凝集剤添加量の検討」指導：岡本強一准教授
- 加藤毅三「水上飛行機を活用した新しいウォーターフロント施設群の提案-広島県尾道市境が浜マリーナを対象として、」指導：小林直明教授
- 横山侑弥「単一角柱の流力振動のおける3次元渦構造について」指導：近藤典夫教授
- 富永柚香「景勝地における消波ブロックの景観調和に関する研究」指導：桜井慎一教授
- 濱嶋杜人「万緑の聳立 -高層化された緑による新たな建築空間の提案 -」指導：佐藤信治専任講師
- 駒野孝太、水野翔「標高を考慮した徒歩避難困難地区の抽出に関する研究」指導：登川幸生教授
- 城田大輔「漁業集落における要援護者の高台移転に関する基礎的研究 -居住地域からの避難距離と津波浸水域境界線との比較検討 -」指導：山本和清専任講師、近藤健雄特任教授

生産工学部建築工学科・生産工学研究科建築工学専攻
[齋藤賞]
* 10 ページ参照

[金井賞]

優れた修士論文に対し、建築工学専攻より授与。元日本大学副総長、生産工学部長の金井清先生が地震学で高い業績を上げたことを称えて設けられた。

- 小室拓弥「レーザによる微細加工が建築材料の水接触角に及ぼす影響」指導：湯浅昇教授

[桜建賞]

*** 11 ページ参照**

[建築工学科論文賞]

優れた卒業論文に対し、建築工学科より授与。

- 堀江優太郎「石綿含有吹付けロックウールの飛散抑制に関する研究 - 粉塵飛散抑制剤の飛散抑制効果の検証 -」指導：永井香織准教授
- 羽鳥孝亮「プレ・ループにおける排水方法について -クメール宗教建築の排水システムに関する実証的研究 -」指導：塩川博義教授、小島陽子助教
- 井手優汰「国木田独歩の著す『武蔵野』の空間の特徴の探求」指導：篠崎健一准教授
- 秋山菜里乃、高田 裕太、土屋 拓夢「CLT 複層壁の耐力性能に関する研究 -自作と既製品 CLT 板の比較 -」指導：鎌田貴久専任講師
- 若井千秋「超高層建築物大規模修繕に関する研究 -補修図調査による外壁損傷分布と劣化要因検討 -」指導：永井香織准教授
- 福田奎也「沖繩伊是名島集落における祭礼時の集落空間に関する研究 -旧暦六月豊年祭に着目して -」指導：篠崎健一准教授
- 我妻宏紀「トンレサップ湖のチョンクニア地区における水上集落の季節移動とその集合形態に関する研究」指導：大内宏友教授
- 大原健一「市民参加がされた庁舎建築の基本構想の検証と市民空間のあり方について」指導：廣田直行教授

[UIA 記念賞]

優れた卒業設計に対し、建築工学科より授与。1978年国際コンペでフランス建築アカデミー賞、81年エジプト賞およびワル

シャワ建築計画局賞受賞を記念した名称。

- 堀田昌宏「反転する賑わいは都市の風貌を変える」指導：岩田伸一郎准教授

[建築工学科デザイン賞]

優れた卒業設計に対し、建築工学科より授与。

- 杉山未沙「思いを受け取り、届ける。」指導：篠崎健一准教授
- 井出優汰「林の奥に座して四顧し、傾聴し、睥視し、黙想す -国木田独歩文学館 -」指導：篠崎健一准教授
- 堀田昌宏「反転する賑わいは都市の風貌を変える」指導：岩田伸一郎准教授
- 李アルム「結び」指導：渡辺康教授
- 澁谷夏海「Innovative Void Spaces」指導：渡辺康教授
- 土屋沙友「町工場があること。 -住工調和型集合体 -」指導：渡辺康教授
- 福田奎也「あばれ櫓」指導：篠崎健一准教授
- 児林幸輔「蛇行する川」指導：篠崎健一准教授

[中国科技大學特別賞]

学部と学術提携締結にともない2012年度より設けられた賞。台湾の中国科技大學規劃設計學院より授与される。

- 児林幸輔「蛇行する川」指導：篠崎健一准教授

工学部建築学科・工学研究科建築学専攻
[齋藤賞]
* 10 ページ参照

[桜建賞]

*** 11 ページ参照**

短期大学部建築・生活デザイン学科
[桜建賞]
* 11 ページ参照

[自主創造賞]

優れた卒業論文・卒業設計に対し、理工学部校友会建築部会からの寄金に基づき、建築・生活デザイン学科と校友会建築部会より授与。

- 石田恵菜「切込み加工を用いた湾曲材の構造性能に関する研究」指導：廣石秀造助教

[奨励賞]

優れた卒業論文および卒業設計に対し、建築・生活デザイン学科より授与。

- 石田恵菜「切込み加工を用いた湾曲材の構造性能に関する研究」指導：廣石秀造助教
- 石塚百絵「保育園・幼稚園の騒音調査」指導：羽入敏樹教授
- 金澤実紀「SPORTHÈQUE -八潮駅前のスポーツコンプレックス-」指導：矢代眞己教授、高田康史助手
- 小熊透太「工業地帯の展望台 -H型鋼から見る世界 -」指導：高安重一助教
- 齋藤望「車いす利用者の鉄道乗換時における障害の実態と施策」指導：吉野泰子教授
- 西脇雅人「船橋キャンパス西門付近の歩行者安全確保に関する考察」指導：山崎誠子准教授

事務局だより

平成 29 年度の桜門建築会総会のご案内



会場案内図/JR 御茶ノ水駅、地下鉄丸ノ内線御茶ノ水駅、地下鉄千代田線新御茶ノ水駅より、徒歩5分程度

来たる5月24日(水)に平成29年度の桜門建築会総会を、東京ガーデンパレスにて開催いたします。会員の皆さまは、どなたでもご出席で

きますので、ふるってご参加ください。なにか不明な点がございましたら、HPをご覧くださいか、下記事務局までお問い合わせください。

日時/平成 29 年 5 月 24 日 (水)
総会 / 18:00 ~ 懇親会 / 19:00 ~
会費 / 8000 円 会場 / 東京ガーデンパレス
問い合わせ電話番号 / 03-3259-0649 (事務局 10:00 ~ 17:00)

新入特別維持会員のご紹介

新規入会者 氏名/卒業年/勤務先 (平成28年11月11日~平成29年2月3日) 9名

桜井 慎一	理工建 -55	日本大学理工学部	塚本 比呂志	他大学 -63	(株)リムーズコーポレーション
堀川 真之	理工建 -H21	日本大学工学部	小林 直明	理工建 -55	日本大学理工学部
千葉 正裕	工 -58	日本大学工学部	森嶋 浩	理工建 -63	(株)伊藤喜三郎建築研究所
海野 陽	工 -H7	(株)ユニバサル設計	田久保 達也	理工建 -58	(株)伊藤喜三郎建築研究所
田畑 博章	理工建 -62	(株)大林組			

賛助会員入会企業のご紹介

新規入会法人名 (平成28年4月1日~平成29年2月3日) 6社

高松建設株式会社	北野建設株式会社	浅井謙建築研究所株式会社
スターツCAM株式会社	株式会社大本組	三井ホーム株式会社

学部ニュース

理工 海洋建築工学科トピックス

◎岡本強一准教授が、タイのバンコクで2016年11月14~16日まで開催された第6回地盤工学・建材及び環境に関する国際会議(International Conference on Geotechnique, Construction Materials and Environment)にて、最優秀論文賞(Best Paper Award)を受賞した。この国際会議は、2011年3月11日に起こった東日本大震災により日本の北東部が甚大な損害を受けたことから、地盤工学、建設資材、環境、水資源と地震・津波災害などの専門技術を世界各国で共有することを目指している。受賞論文名は、『HIGH ABILITY REMOVAL METHOD TO RADIOACTIVE CESIUM FROM OCEAN SLUDGE BY USING

MICRO BUBBLES AND ACTIVATING MICROORGANISMS』。
◎新宮清志名誉教授は、工学院大学・後藤治教授、三重大学・花里利一教授、早稲田大学・長谷見雄二教授とともに、日本建築学会に2017年度開始特別調査委員会設置提案書を提出していたところ、「歴史的価値を有する大規模木造宿泊施設の安全性能確保特別調査委員会」が採択された。新宮名誉教授が委員長予定で、調査研究期間は2年間、本委員会委員は16名、傘下に4個の小委員会が設けられることになっている。目的は、歴史的・文化的価値を有する大規模な木造宿泊施設が、法の求める安全性を確保しつつ、歴史的・文化的価値

を継承できる方法を、法規・構造・防火・計画の各面から、さらに学際的・総合的に調査研究し、それを実現するためのガイドライン(案)を示すことである。



上/最優秀論文賞を受賞した岡本強一准教授(中央)。両脇は、共同著者右/Best Paper Awardの賞状



工 トピックス

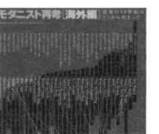
◎漆原秀明君(浅里研, M1)と我妻佑磨君(浦部研, M1)は、日本建築構造技術者協会東北支部主催の構造デザインコンテスト「楽天 Kobo スタジアムに屋根を架けよう」に「Unstable Structure」と題する作品を応募し、2016年6月25日のプレゼンテーション審査の結果、奨励賞を受賞した。
◎速水清孝教授が調査所見を執筆した「瓶子家住宅(福島市)」が、2016年7月15日の文化審議会で、文部科学大臣への国登録有形文化財への登録答申が

決定した。
◎浦部智義准教授と浦部研究室が関わった、「地形舞台-中山間過疎地域に寄り添う茅葺き集会所と舞台を起点とするまちづくり活動-」が2016年ウッドデザイン賞を受賞した。
◎2016年10月20日の日本建築家協会(JIA)主催第20回東北建築学生賞の公開審査会で、13校15学科応募総数36作品の中から、伊藤和輝君(渡部研, 3年)と渡部昌治君(浦部研, 4年)の作品が奨励賞を受賞した。

短大 トピックス

◎高田康史助手の「本庄巡宿-暮らしを紡ぎ生まれる旅路-」が第18回美しくまちをつくる、むらをつくる提案競技:埼玉県本庄市(建築・まちづくり部門の部)(主催/日本建築学会関東支部)において佳作を受賞した。市街地に残る近代産業遺構等の活用を手がかりに中山道本庄宿の再生が問われ、日常の活動交流処を歩いて巡るコンパクトな地域づくりが評価された。

田所辰之助教授と矢代眞己短大教授が執筆した『モダニスト再考[海外編]』



いまだわれわれは触発してやまないモダニズム建築

理工 建築学科トピックス①

◎「平成28年度全国大会学生公開アイデアコンペ」(主催/日本造園学会)で、佐藤千香さん(山崎研, 4年)と西岡一穂さん(千葉大学園芸学部)の「源」が「大学生の部」で「佳作」を受賞した。
◎「第3回関東学生景観デザインコンペティション」(主催/関東学生景観デザインコンペティション実行委員会)で、飯嶋貫太君(古澤・二瓶研, 4年)と伊東亮祐君(佐藤光彦研, 4年)の「漂う時景の雲」が「佳作」を受賞。埼玉県和光市の午王山遺跡を対象に、テーマは「時をつなげる景観デザイン」。
◎「第3回宇宙建築賞」(主催/宇宙建築コンテスト実行委員会)で、河部卓也君(今村研, M1)と本学卒業生の峯村颯君と西崎晃平君の「天上の竹」が「入賞」した。

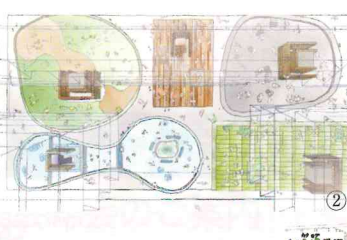
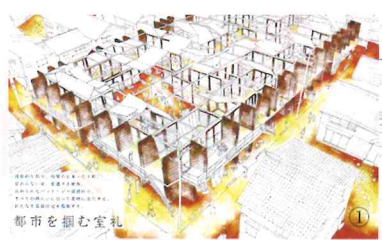
◎「住空間 eco デザインコンペティション REAL SIZE THINKING 2016」(主催/「住空間 eco デザインコンペティション」)で、石川大二郎君(山中研, M1)、小山恭史君(佐藤光彦研, M1)、宇田百孝君(同左)の「窓景[madoca]」が協賛企業賞「積水ハウス賞」を受賞。
◎「歴史的空間再編コンペティション 2016 第5回「学生のまち・金沢」設計グランプリ」(主催/歴史的空間再編学生コンペ実行委員会、金沢市)で、菊池毅君(今村研, M1)の「14-STORY BUILDING 都営西台アパートと明日の新都市への試論」が「第十六位」に選出。テーマは「歴史的空間の再編」。
◎田所辰之助教授、矢代眞己短大教授が執筆した『モダニスト再考[海外編] 建築の20世紀はここから始まった』

(彰国社編、彰国社)が刊行。田所教授は「ペーター・ベーレンス 芸術/技術、その切断の狭間で」を、矢代教授は「マルト・スタム 近代『バウエン』の殉教者あるいは虚空に消えたアヴァンギャルド」、「カレル・タイゲ『構成』の詩学を説いたイデオログ」を寄稿した。
◎佐藤慎也教授、古澤大輔助教、雄勝スタジオ/日本大学が寄稿した『シェア空間の設計手法』(猪熊純・成瀬友梨編、学芸出版社)が刊行された。佐藤教授と古澤助教が共同で設計した建築作品「3331 Arts Chiyoda」と、古澤助教が設計した建築作品「中央線高架下プロジェクト」、雄勝スタジオ/日本大学の建築作品「波板地域交流センター」が掲載されている。

桜建会報 NO.108 2017-March
発行人 斎藤公男
編集 桜門建築会広報委員会
〒101-8308 千代田区神田駿河台1-8-14
日本大学理工学部内

広報委員会
委員長 佐藤慎也(理工学部建築学科)
副委員長 塩川博義(生産工学部建築工学科)
大川三雄(理工学部建築学科)
委員 山本和清(理工学部海洋建築工学科)
亀井靖子(生産工学部建築工学科)
ブンタラ・S・ガン(工学部建築学科)
矢代眞己(短期大学部建築・生活デザイン学科)
北川健太(セカイ)
大西正紀(mosaki)
西山麻夕美(フリー編集者)

桜建会事務局
住所・所属の変更、クラス会の開催、投稿、会費、名簿など桜建会全般についてお気軽にご連絡、お問い合わせください。
理工学部5号館7階574A号室
TEL03-3259-0649 FAX03-3292-3216
E-mail kaiin@okenkai.jp
ホームページ http://www.okenkai.jp/
専任 星野麻衣子
非常勤 櫻井佐和、大木明子
業務時間 AM1000~PM500(月~金)



①都市を掴む室礼②百ノ家、一ノ玄関③くらし方録賃貸④暮らしを纏う大地⑤窓辺屋ノふるまい



理工

建築学科トピックス②

◎「キルコス国際建築設計コンペティション2016」(主催/キルコス国際建築設計コンペティション実行委員会)で、以下の学生が各賞を受賞した。テーマは「鉛直/垂直」、応募総数は301点。尾崎健君(佐藤光彦研、M1)の「垂直に根を張る建築」が「小川次郎賞金賞」。添田魁人君(古澤・二瓶研、M1)、吉村凌君(田所研、研究生)、廣野陽太君(古澤・二瓶研、M1)の「Superimpose Poche」が「畑友洋賞銀賞」と「山口陽登賞銀賞」。河部卓也君(今村研、M1)の「緑取る居場所」が「長坂大賞佳作」。宇田百孝君(佐藤光彦研、M1)、菊池毅君(今村研、M1)の「風の居場所」が「みかんぐみ賞佳作」。

◎「第三回ラ・アトレ学生実地コンペ2016」(主催/ラ・アトレ)で、佐藤光彦研の小山恭史君(M1)、伊藤亮祐君(4年)、井上真由美さん(同左)、竹野水月さん(同左)、宝迫嘉乃さん(同左)、西島修悟君(M2)、敦賀谷俊君(同左)の「坪庭のある1階かど部屋」が「ブロンズ賞」を受賞。テーマは「自由が丘」×「すむ+かたち」。また、増田俊君(今村研、4年)、横山大貴君(同左)の「幕壁のある住まい」が「日建学院賞」を受賞。

◎「第12回「新・木造の家」設計コンペ

(主催/NPO法人森林をつくろう、後援/林野庁・金沢市ほか)で、石川大二郎君(山中研、M1)、尾崎健君(佐藤光彦研、M1)の「蔵と暮らす」が「優秀賞」を受賞した。

◎「Drawing of the Year 2016」(主催/Aarhus School of Architecture、Denmark)で、建築学専攻1年の菊池毅君(今村研、M1)の「エレメントの記述」が「Special mention(特別賞)」を受賞した。テーマは「Habitation」。64カ国、応募総数365点。

◎「第1回学生住宅プランニングコンテスト」(主催/コンチネンタルホームグループ)で、池田貴大君(古澤・二瓶研、4年)と矢坂研二君(佐藤光彦研、4年)の「日常を紡ぐパレット 連続する小さなふるまいと家族を包む大きなイエ」が「審査員特別賞」を受賞した。テーマは「家族の中心、“子ども”」。

◎「第10回 JACS 全日本学生建築コンソーシアム「住宅設計コンペ2016」」(主催/全日本学生建築コンソーシアム)で、市ノ川貴之君(田所研、4年)、伊東亮祐君(佐藤光彦研、4年)、稲庭香歩さん(同左)の「壁が家」が「佳作」を受賞した。

生産工

トピックス

◎第16回住宅課題賞2016(主催/東京建築士会)で、池田光君(3年)、山下ジロ君(4年)、小山佳織さん(2年)の作品が入選した。

◎第12回ダイワハウスコンペティション「都市に住む快樂」で、日野一貴君(M1、岩田研)・岡田遼君(M2、岩田研)の「窓辺屋ノふるまい」が佳作に入選した。

◎第10回長谷工住まいのデザインコンペティション「日本の集合住宅」で、伊藤匡哉君・上山友理佳さん・小川菜摘さん(岩田研ゼミ生)と日野一貴君(M1、岩田研)の「百ノ家、一ノ玄関、秋元讓君・北澤一樹君・小室昂久君(岩田研ゼミ生)と小林航也君(M1、岩田研)の「暮らしを纏う大地〜土に根を張る100戸の住まい〜」が佳作入選した。

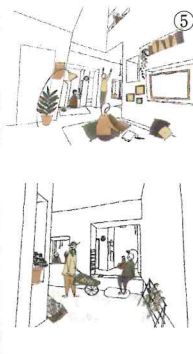
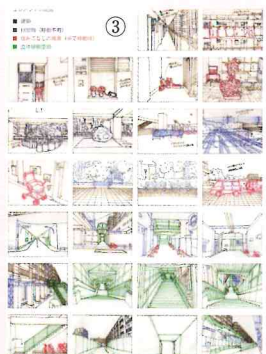
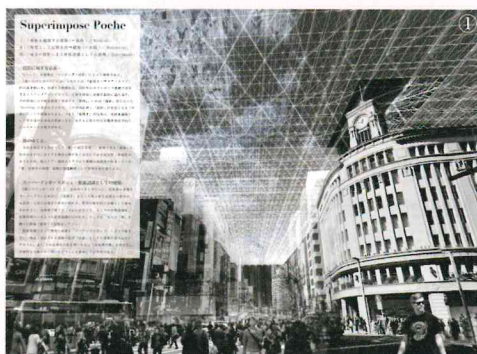
◎第5回大東建託賃貸住宅コンペ「進化する賃貸住宅」で、秋元讓君・伊藤匡哉君・松井裕作君(岩田研ゼミ生)と小林航也君(M1、岩田研)の「くらし方録賃貸」が入選、岡田遼君(M2、岩田研)の「都市を掴む室礼」が学生特別賞を受賞した。

◎2016年11月17日の日刊建設工業新聞に、岩田研が取り組む「震災避難所改善プロジェクト」が紹介された。

◎2016年11月29日、塩川博義教授と三上功生専任講師が、中国の天津城建大学建築学院で招待講演を行った。

◎国立近現代建築資料館「建築と社会を結ぶ一大高正人の方法」展にて、廣田研究室の学生他が関わった模型が展示された。

◎2016年11月1日、2日、廣田直行教授と山岸輝樹助教が、中国の西安工程大学と文化庁で招待講演を行った。



① Superimpose Poche ② 蔵と暮らす ③ エレメントの記述 ④ 幕壁のある住まい ⑤ 壁が家

